

信州自然探訪図鑑

妙高戸隠連山国立公園 霊峰霊場戸隠

戸隠連峰の高峰である戸隠山は、北信五岳のひとつに数えられ、信州百名山にも名を連ねている。古くから修験道場や戸隠流忍者の里としても知られ、戸隠神社は霊山戸隠山の麓に、奥社・中社・宝光社・九頭龍社・火之御子社の五社からなる。奥社には廃仏毀釈以前まで聖観音菩薩を祀り、撰社に地主神の九頭龍社が祀られている。その起こりは遠い神世の昔、「天の岩戸」が飛来し、現在の姿になったといわれる戸隠山を中心に発達し、祭神は、「天の岩戸開きの神事」に功績のあった神々が祀られている。平安時代末は修験道の道場として都にまで知られた霊場であった。神仏混淆のころは戸隠山顕光寺と称し、当時は「戸隠十三谷三千坊」と呼ばれ、比叡山、高野山と共に「三千坊三山」と言われるほどに栄えた。戸隠山は形状が屏風形であるため切り立った崖を登り、尾根上は両側が断崖絶壁で「蟻の塔渡り」など険しい場所が多い。

戸隠の名は、「天照大御神が高天ヶ原の天の岩戸に隠れたとき、天手力雄命がその岩戸をここまで投げ飛ばし、世に光を取り戻した。」との伝説による。戸隠山から高妻山に至るまでが戸隠曼陀羅として考えられ、修験の地として高妻山の奥にある両界山付近までが古くから栄え、天台宗と真言宗が覇を競い、山に向かって奥社参道左側が真言宗、右側が天台宗の領域であったとされる。両宗派間にはいさかいが絶えなかったが、最終的に真言宗が戸隠の地を追われる結果となった。戦国時代、信濃国とその近隣では上杉氏と武田氏が覇を競ったが、この時期の戸隠神社や飯綱神社は多くの山岳信仰修験道の修験者と信仰者集団を抱えており、両氏にとってぜひ味方につけたい存在であった。明治に入り、廃仏毀釈によって全て神道に代わり現在に至っている。戸隠修験者が使用した洞窟や岩屋である「三十三窟」が山の中腹に残っており、「般若窟」「龍窟」などの名称も残っているが、修験道は既に絶えている。中社に祀られている天表春命は、素戔鳴尊の度重なる非行に天照大神が天岩戸にお隠れになった時、岩戸神楽を創案し、岩戸を開ききつかけを作ったという神で、宝光社には天八意思兼命を祀り、杉の古木の中、二百七十余段の石段を登ると神仏習合時代の面影を残す社殿があり、その荘厳さは多くの信者の尊信を集めてきた。



いあいさつ



長野県環境測定分析協会
会長 酒井今朝重

協会だより「ナチュラル」発行にあたりご挨拶申し上げます。

中国では環境の告発ドキュメンタリーの中国版「沈黙の春」が話題になっていきます。「沈黙の春」は一九六二年のアメリカに於いてレイチェル・カーソンが農薬汚染を告発したもので、その頃の日本も環境汚染では四大公害病の告発全盛期のなかで東京オリンピックが開催され、現在の中国での環境汚染の現状は、半世紀前の日本と重なって見えて来ます。

一九六四年の計量法改正による環境計量証明事業所の登録制度開始の四年後に初代小澤会長のもとで「環境計量に関する技術の向上と、適正な環境計量を実施し、もって生活環境の保全と改善に資する」を目的として、一八社の会員により、長野県環境計量証明事業協会が設立されました。この頃の環境汚染は、江戸川区六価クロム廃棄事件・豊島廃棄物不法投棄事件が起きた時期で、

現在ではダイオキシン・アスベスト・放射能汚染へと、環境汚染も様変わりしてきました。

現在の低価格競争問題及び精度管理は、発当初からの課題で料金問題研究会、クロスチェックを目的の技術部会を発足させ、旧公害防止管理協会、旧衛生公害研究所のご支援により今日まで取り組んできているところです。

平成七年からは甲信越測定機関連絡協議会の前身であります信越環境測定機関協議会を発足させ、毎年定期的に連絡協議会を開催し環境測定分析の発展に努め、総務部会では平成十五年からは広報誌「ナチュラル」を創刊し協会の活動を紹介しております。

計量法は施行されて六五年を経過し、環境計量証明の分野では、ダイオキシン類や環境ホルモンなどの微量有害物質測定のための精度向上や計量法の改正で導入された「特定計量証明事業者認定制度(MLAP)」が設けられましたが、計量法は国際規格で無く、欧米各国における認可制度と比較するとレベルの高いものとは言えず、精度管理の面では最も問題が多いとの指摘を受けています。分析試験所の国際的な自主規格である「ISO/IECガイド25」

などへの対応が課題となり、ISO/IECガイド25は後継規格のISO17025に代わり、同規格を取得した計量証明事業者も増えてきております。中国における国内規格もISO/IECガイド17025をスタンダードとしており、またISO9000に日本の品質管理規格は国際的には認められなかった

いあいさつ



長野県環境部
部長 青柳郁生

今年の4月から長野県環境部長を務めております青柳郁生でございます。

長野県環境測定分析協会の皆様には、日頃から本県の環境行政の推進に御理解と御協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、協会として技術研修会の開催や精度管理事業への参加等による会員の分析技術の向上に努められておりますことに敬意を表します。

本県は、四季の変化に富んだ全国

過去が有り、経済産業省では計量法を中心とした見直し作業が進められています。このような現状を踏まえながら当協会に於いては今後も長野県環境部及び環境保全研究所・計量検定所の皆様のご指導ご支援をいただきながら、環境計量における精度管理と長野県の環境の保全に努めてまいります。

でも有数の美しい自然に恵まれており、この美しく豊かな自然環境を保全し次世代に引き継いでいくため、現在、平成25年に策定した「第三次長野県環境基本計画」に基づき、県民、事業者、行政などあらゆる主体の参加と連携により各種の取り組みを行っているところです。

本計画は、水資源の保全に対する懸念や全国的なエネルギー需給問題など、新たな課題にも計画的に対応するために策定し、環境保全活動、地球温暖化対策、廃棄物の発生抑制や適正処理、水環境の保全や大気汚染防止、生物多様性の保全など、対象とする施策の範囲は多岐にわたっています。これらのいかなる分野においても、環境測定分析による結果は施策を検討する上で重要な基礎資料となります。

さて、昨年は、7月に南木曾で土

石流、9月に御嶽山の噴火、11月には県北部を震源とした最大震度6弱の地震が発生し、経験したことのない災害の連続の年でした。特に9月に突然噴火した御嶽山では、噴煙による健康や生活環境への影響を確認するために、大気環境は、常時監視地点に加え木曾町開田支所局及び王滝村役場局に臨時測定局を設置し、二酸化硫黄(SO₂)及び浮遊粒子状物質(SPM)の測定を、また、水環境は、河川、湖沼等の水質常時監視に加え一部民間委託によりpHや濁度について、測定地点や頻度を増やして実施し、県民や関係機関に広く情報提供してまいりました。

このように、測定結果は、県民の健康を保護し、生活環境を保全する上で重要なデータでもあり、県民の関心も高いものとなっております。そのため、分析機関においては精度の向上を図ること等により、測定結果の信頼性を確保していくことが今後とも求められております。

協会の皆様におかれましては、本県の環境の保全のために引き続きご尽力くださいますようお願いいたします。

今後の貴協会の益々の御発展と会員皆様方の御健康を心より祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。

ごあいさつ



長野県環境保全研究所
所長 藤森 靖夫

今年の4月から長野県環境保全研究所長を務めております藤森靖夫でございます。ご承知のとおり当研究所は、平成16年に「旧長野県衛生公害研究所」と「旧長野県自然保護研究所」が統合し発足いたしました。長野県環境測定分析協会の皆様には、統合以前から変わらぬご理解とご協力を賜っております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

当研究所ではこれまで、「長野県の豊かな環境の保全と保健衛生の向上を図るため、行政施策を技術的にバックアップできる体制と技術・知識の向上に努め、県民に開かれた信頼される研究所」を目標として、さまざまな課題に取り組んでまいりました。

長野県は山紫水明や長寿を誇っておりますが、一方で他県と同様に環境保全や保健衛生に係る様々な課題を抱えております。昨年は、ネットイシマカなどの蚊によって

媒介されるデング熱などの感染症が問題となり、今年においてもその流行が懸念され、対策が継続して進められております。また、昨秋のツキノワグマの大量出没に伴って人身被害が過去最多となり、クマの個体数の調査と、その対策が求められております。その他にも、諏訪湖の浄化対策などの湖沼や河川の水質保全、県外や国外からの大気汚染物質の移流対策、「安全・安心」な生活のためのインフルエンザなど感染症の流行予測や食品中の残留農薬といった汚染物質の実態調査、放射能汚染などの危機管理対応など、いずれも必要不可欠ならざるものです。さらには、豊かな自然環境のための生物多様性の保全や将来を見越した地球温暖化への適応策など、次の世代へ豊かな環境を継承していくための対応も重要な課題です。

このような様々な問題への対応に当たりましては、官民を問わず、多くの皆様と連携し、一体となって課題の解決に向けて取り組むことが大切だと考えております。特に貴協会の皆様には、こうした研究所の取り組みの様々な場面で、共に行政をバックアップし、豊かな環境の保全と安心・安全な生活を目指して、これ

までも一方ならぬご協力とご支援を賜ってまいりました。また、皆様には、長年にわたる県の環境行政へのご尽力に加えて、技術研修の実施や分析精度管理事業への参加、研究事例発表など、一貫して分析技術と知識の向上にも取り組んでこられました。心より敬意を表し、ご協力とご



長野県計量検定所
所長 近藤 友巳

ごあいさつ

支援に感謝申し上げますとともに、今後の引続きのご尽力をお願い申し上げます。

結びにあたり、貴協会の今後益々のご発展と、会員の皆様のご健勝を心より祈念いたしました。ご挨拶とさせていただきます。

長野県におきましても、度量衡法の施行に伴い、明治26年に初めて長野県度量衡常置検定所が設置されて以降、組織は様々に変遷しましたが、一貫して「適正な計量の実施の確保」を目的に、地道に検定・検査等の業務を実施して参りました。

近年、技術の高度化、国際化、行政改革等の流れの中で、私どもも取り巻く環境も厳しくなっています。が、職員一人一人が、この計量制度の重要性を認識し、知識と技術の研鑽に努め、引き続き、適正計量の推進に向け努力して参りたいと考えています。

環境計量関係につきましても、計量法に基づいた環境計量証明事業の登録や環境計量士に関する事務、計量証明検査等の業務を実施していますが、地球規模での環境問題が叫ばれる中、複雑・多様化する社会ニーズに対応していくうえで、極め

て重要な事業であると認識してまいります。

このような中で、貴協会におかれましては、昭和53年の設立以来、「様々な環境問題の調査・測定・コンサルティングを通して長野県民の大切な生活環境を守る」ことを使命とし、各種事業を展開されてきました。

とりわけ、分析技術の向上と信頼性の確保に向け積極的に取り組まれる中で、本県の環境保全、環境対策において、大きな貢献をされてきたことに深く敬意を表する次第です。

貴協会の役割は、今後益々重要な複雑になると思いますが、会員の皆様の実績を結集し、会員相互の連携を深める中で、困難な課題を乗り越え、業界全体がさらに発展されることを大いに期待します。

私ども、計量検定所におきましても、貴協会と連携・協力しながら県民の安全・安心を計量の面から支えてまいりたいと考えていますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

最後に、貴協会の一層のご活躍をご期待するとともに、会員の皆様も益々のご発展をご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



酸性雨調査結果報告 (調査期間 平成18年~平成26年)

長野県環境測定分析協会技術部会では、平成18年より環境汚染の一つに捉えられている酸性雨の実態調査を計画し、雨水調査を行ってきました。これまで毎年協会会員の協力のもと県内各検査機関の所在地において降雨を採取し、調査対象としました。今年で10年目を向かえ、過去9年間の結果は各年度ごとにまとめ報告してきたところですが、ここでは年間推移の様子を降雨のpHをはじめ陽イオン、陰イオンの水質検査の結果についてご報告いたします。

I 調査の概要

雨水の採取は周囲が開放されかつ地面からの跳ね返りの無い場所にピーカーを設置し、降り始めから降り終わりまでの降雨を採取した。(一降雨全量採取)採取は4月と5月の2回行った。

水質測定項目や分析方法、定量下限値を表1に示す。尚、採取した雨水はpH及び電気伝導率を測定後0.45μm MFでろ過し試験に供した。

表1

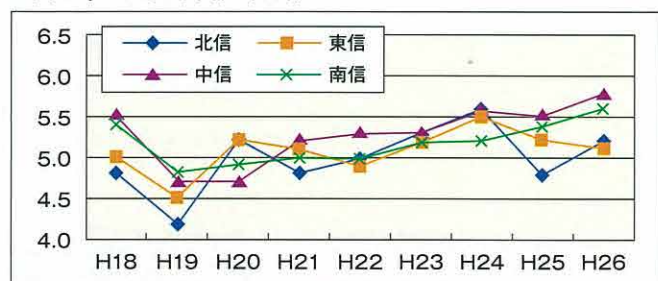
測定項目	測定方法	単位	下限値
降水量	ピーカの底からの高さ	mm	整数
貯水量	メスシリンダー	mL	整数
pH	ガラス電極法		小数点以下1位
ナトリウムイオン	IC,AA,ICP,ICP/MS	mg/L	0.05
カリウムイオン	IC,AA,ICP,ICP/MS	mg/L	0.05
カルシウムイオン	AA,ICP,ICP/MS	mg/L	0.05
マグネシウムイオン	AA,ICP,ICP/MS	mg/L	0.05
アンモニウムイオン	IC,吸光光度法	mg/L	0.1
硫酸イオン	IC	mg/L	0.05
硝酸イオン	IC	mg/L	0.05
塩化物イオン	IC	mg/L	0.05
電気伝導率	電導度計	mS/m	0.1

※同一項目に測定方法が複数ある場合は各検査機関の判断によった。

II 調査結果

各採取地点におけるpH、降水量の経年変化の結果を、図1~図2に示す。また、代表的な陽イオン、陰イオンの経年変化の結果を図4~図6に示す。

図1. pHの経年変化 (4月)



(5月)

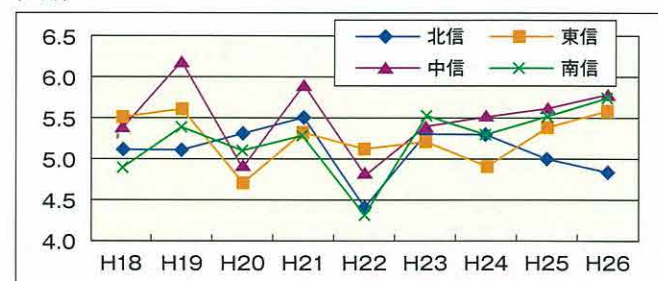
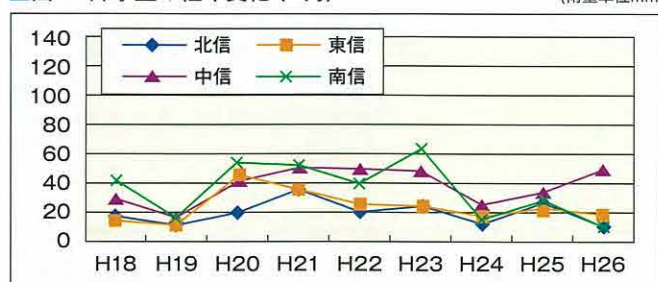
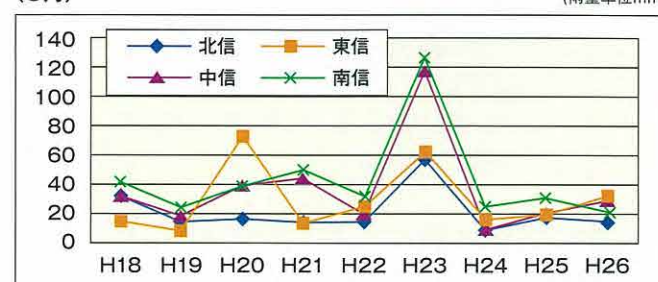


図2. 降水量の経年変化 (4月)

(雨量単位mm)



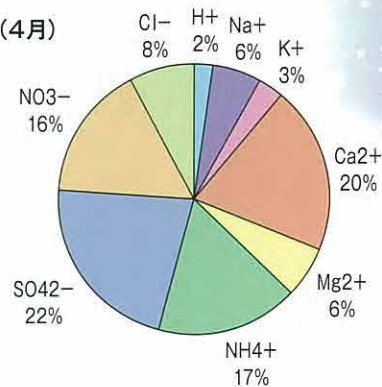
(5月)



降水量は南信が多く、北信は少ない。中信の降水量は南信に次ぎ、東信の降水量は北信に近い。次に、雨水中の陽イオン・陰イオンの成分比を北信地区、中信地区(H26.4)のデータを例に図3に示す。

図3

北信 (4月)



中信 (4月)

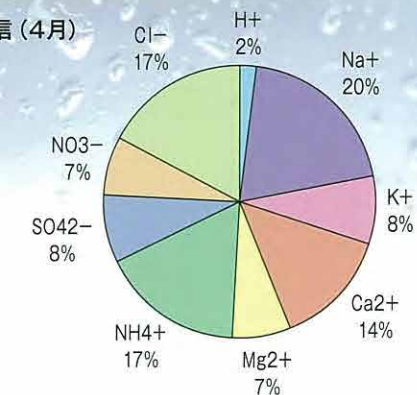
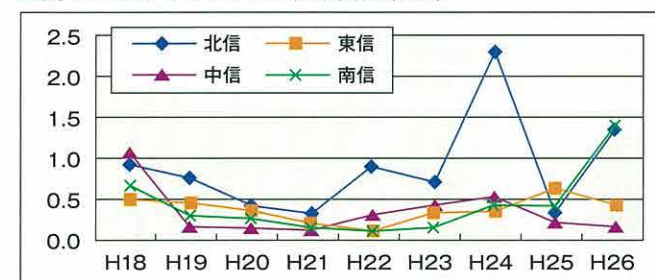


図4. カルシウムイオンの経年変化 (4月)



(5月)

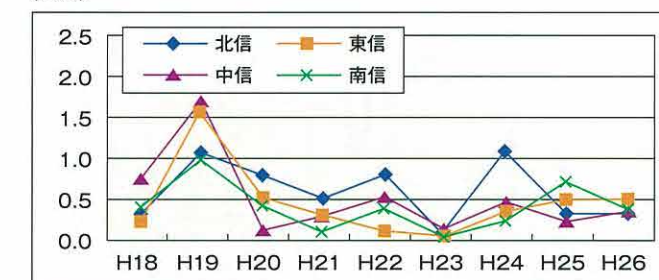
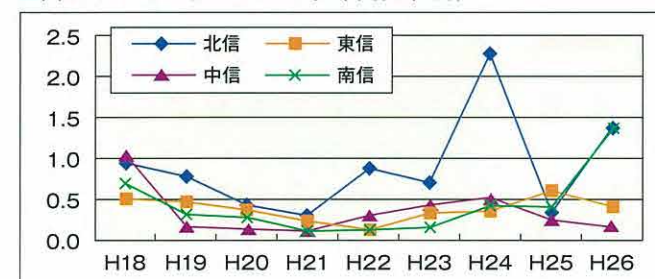


図5. アンモニウムイオンの経年変化 (4月)



(5月)

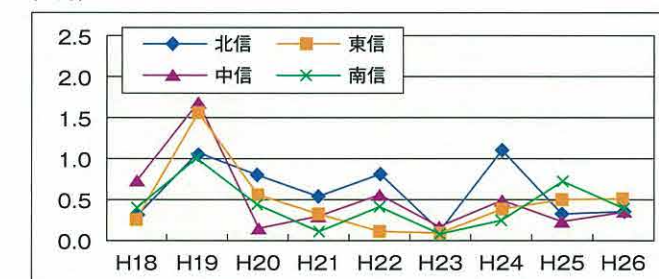
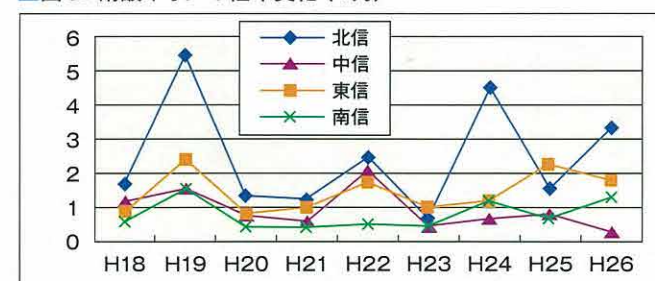


図6. 硝酸イオンの経年変化 (4月)



(5月)

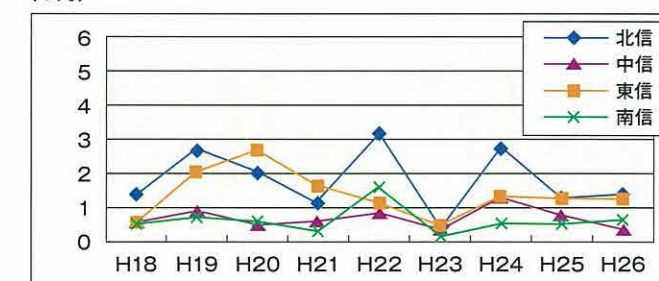
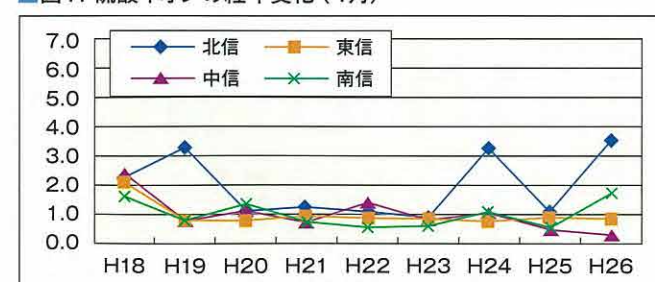
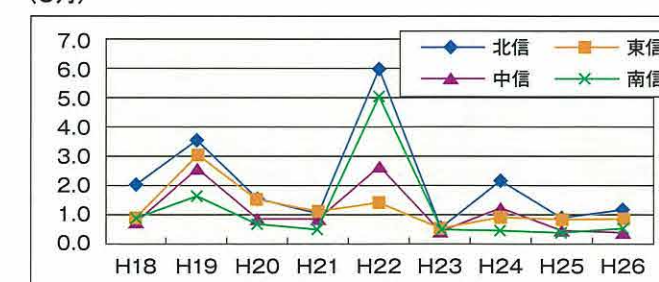


図7. 硫酸イオンの経年変化 (4月)



(5月)



■ 酸性雨調査結果報告

前ページより続く

Ⅲ おわりに

平成18年より協会員協力のもと、酸性雨の調査として年2回、4月と5月に測定を行ってきた。

これまでの結果、4月と5月の測定結果に異なる傾向が見られ、時期によって降雨成分に寄与する要因が変わっていることが示唆された。そのような環境のなか各地域ごとの成分比に違いは見られるものの、月ごとの各成分の経年変化はほとんどなく、安定した大気環境が維持されている結果となっている。

但し、測定機関によっては2回の測定値や年毎の測定値に大きな変動が見られ、局所的な影響が懸念されることから、測定値の取り扱いには考慮する必要がある。また、24年度は測定下限値の見直しを行い、できるだけ測定項目の定量値が得られるよう定量下限値を下げたことから、調査の精度向上が計られた。

技術部会ではこれからも環境測定による社会貢献と自然環境の維持保全に寄与するため、このような統一調査を通じて精度管理の推進と測定技術の向上に取り組んでいく所存です。

長野県環境測定分析協会 技術部会

最近の土砂災害より明らかになった『土砂災害防止法』の重要性

『土砂災害防止法』とは、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律であり、最近では早期制定の必要性が強く求められている。

この『土砂災害防止法』制定の背景には、毎年のように全国各地で発生している土砂災害の実態があり、直近の土砂災害としては長野県南木曾町、および広島県広島市での大規模な土砂災害が記憶に新しい。

これらはいずれも、予想を上回る局地的な短時間大雨により上流域の山が崩れて大規模な土石流が発生したことによるが、その被害は甚大で、家屋被害にとどまらず多数の犠牲者がでた未曾有の大災害となった。

このような土砂災害から人命や財産を守るためには、土砂災害防止工事等のハード対策と併せて危険性のある区域を明らかにして、その中で警戒避難体制の整備や危険箇所への新規住宅等の立地抑制、および既存住宅の移転促進等のソフト対策を充実させていくことが急務である。

そのためには、土砂災害の種類（急傾斜地の崩壊、土石流、地滑り）に応じた基礎調査を実施したうえで、土砂災害警戒区域（通称：イエローゾーン）、および土砂災害特別警戒区域（通称：レッドゾーン）の指定を行う必要がある。

このように『土砂災害防止法』の重要性を述べてきたが、日本列島は急峻な地形で構成されているため、一刻も早く危険箇所を抽出したソフト体制構築が急務であると同時に、各自が気象情報に着目することで高い防災意識を併せ持つことが自らの命を守るうえで極めて大切である。

研修会参加レポート

Report2015

環境専門研修を受講して

株式会社東信公害研究所 検査室 依田 幸浩

IC、HPLC、水質検査実技、金属分析の研修に参加させていただきました。

原理の説明、前処理、試薬作成、測定、データ処理までの一連の流れを体験することができ、私自身が行って来た項目についても手順を見直す良い機会になりました。

金属分析研修ではICP-MSの取り扱いに加えて、希望したところ原子吸光の取り扱いも行っていただき大変勉強になりました。

少人数での研修だったため気軽に質問できる雰囲気で他社の研修生とも交流することができとても良い経験になりました。

研修で学んだものを今後の検査業務に生かしていきたいです。最後にこのような機会を設けていただき有り難うございました。



わが社の スペシャリスト

第2回

株式会社 信濃公害研究所
堀籠 道明 さん

昭和58年4月に入社して今年で32年になります。入社当時は、BODの分析を担当し、その後大気関係の部署に移って、ボイラーのばい煙測定をはじめ作業環境測定、環境アセスメントの現地調査等に携わり、現在では、アスベスト調査や土壌調査の業務を主に担当しております。

現地調査では、雪の降る中の騒音測定や交通量調査などづらかったことはたくさんあります。納期の迫った報告書の深夜を通しての作成や、調査ミスをしてお客さんに謝りにいったことなどつらい思い出のほうに記憶に残っております。



さんや上司、同僚、部下との関わりが仕事をしていく上での財産になっていっているように思います。そんな中でも、環境アセスで志賀高原に気象調査に行った際に観測地点がスキー場内であったので調査の合間にスキーをしたことが良い思い出です。こうしてやってこられたのも顧客をはじめ同業者のみならず、会社の仲間を支えられてきたからだと思えます。これからも支えてくださる皆さんへの感謝の気持ちを忘れずにがんばっていききたいと思えます。

事業所訪問

[第13回]

松本市 株式会社 環境技術センター

弊社は本年12月で会社組織にして満四十年を迎えます。現在は中国、インド等の大気汚染、水質汚濁について報じられて今の日本の環境と比べておりますが当時、日本も発展途上国並みの状況でした。ばい煙、水質汚濁、騒音これら公害問題解決の一役を、と設立致しました。全く新しいビジネスで公害から環境へと社会要求と共に歩んでまいりました。中央・長野・上信越自動車道路網の延伸、松本空港開設、長野・北陸新幹線の開通、信州博、長野オリンピック、松本サリン事件、ゴルフ場の開設、ごみ焼却施設・し尿処

理施設・下水終末処理施設増開設等々：物質等で上げるとPCB、ダイオキシン類、アスベスト、原発由来放射線、土壌汚染問題等々に調査・測定・分析・アセスメント・測量・コンサルタント・修復に参画し現在に至っております。

○社会貢献度が大きなるゆえに透明化を柱にして次の様に取り組んでおります。

- ・技術者魂で「中立公平」を貫く；これは創業以来のDNAとしております。
- ・技術力の担保：ISO/IEC 17025
- ・放射線分析で日本の窓口のJABにて認定。
- ・組織運営の透明化：ISO 9001 JQAにて認証
- ・基本ツールとして活用。
- ・社会参加：EC21 環境教育活動を展開しております。
- 「ある物、ある分野で日本一！」に現在挑戦中
- ・環境コンサルタント、建設コンサルタント、一級建築士事務所、



修復改善、測量、調査・測定・分析、環境・理科教育：子供・学生・一般社会人、企業・公官庁環境 担当、等々リアルタイムデータ提供：電気出力が有れば遠隔地でも低コストで見える化が可能、○より良い環境づくりにはトリプルワークで！

- ・日本全国をむすぶネットワーク
- ・細やかで軽いフットワーク
- ・会社一丸のチームワーク

初心を大切に皆様と共に歩みますのでこれからもよろしくお願ひ申し上げます。

環境測定ひとくち知識

環境分析の世界では、日常生活の中では聞きなれない単位があたりまえのように使われます。ppmやmg/lなどが代表的でしょうか。これは濃度を表す単位であり、微量な物質を対象として処理するためです。ppmとはParts per Millionのことで、100万分の1という意味になります。単位でなく何パーセントといった比率を表し、大気によく使われます。例えば、1㎡の空気中に100mlの炭酸ガスが存在すると、100ml÷100万mlから100ppmとなります。ただし、重さを測定する粉じんになると話は違ってきて、分母になる空気容量は1㎡のままでもg/㎡やmg/㎡となります。

次にmg/lですが、これは水処理で使われます。単位重量ではなく、単位容量あたりの水を基準として物質がどれくらいあるか考えることが多い為です。水処理でppmからmg/lに置き換えているのは、水の比重が1である場合には、ppmとmg/lの値は、ほぼ一致してくるからです。比重が1でない場合には若干のずれが生じます。そこで本来の意味である容量の単位lを分母として、対象である物質の重さであるmgを分子として表記することに置き換えられています。

ppmは比率であり、mg/lは単位ということになります。

私の趣味自慢

アズサイエンス株式会社
中村明博さん

松本山雅FCが2015シーズンからJ1に昇格し、世界的なトッププレイヤーの試合が間近で観られることで、松本のサッカー熱はフライパンの上より熱いのではないかと思います。ホームスタジアムのアルウィンはいつも熱狂的山雅サポーターで埋め尽くされ、とても興奮します。また長野ではAC長野パルセイロがJ3で活躍し、レベルの高いプレーを間近で観られる機会が増え、とても刺激的です。近い将来、信州ダービー(松本VS長野)が実現することを期待しています。

私はプレイヤーであり、地域の社会人チーム「アンテロープ塩尻」に所属し、平日の夜はトレーニング、日曜日に試合をしています。チームメイトは20〜40歳と幅広い年齢層のサッカー好き集団ですが、昨年は国体にも出場しました。私の年齢は中間を過ぎましたが、若い奴には負けられないぞという強い気持ちを持って日々打ち込んでいます。

走れる限りボールを追いかけ、一生涯プレイヤーでいたいと思います。



長野県環境測定分析協会正会員一覧

北信
(一社)長野市薬剤師会 検査センター
ユートピア産業 株式会社
株式会社 ネイテック
(一社)長野県労働基準協会連合会
株式会社 科学技術開発センター
(一社)長野県農村工業研究所
直富商事 株式会社 環境計量証明事業所
株式会社 エスコ

中信
株式会社 環境技術センター
(一社)長野県薬剤師会 検査センター
有限会社 林薬局
株式会社 公害技術センター
環境未来 株式会社
(公財)自然農法国際研究開発センター-農業試験所
株式会社 環境科学

東信
株式会社 信濃公害研究所
(一社)上田薬剤師会 検査センター
日本プレーティング 株式会社
株式会社 東信公害研究所
南信
株式会社 コーエキ
(一社)上伊那薬剤師会 検査センター
(一財)中部公衆医学研究所
南信環境管理センター 株式会社

賛助会員 岡谷酸素 株式会社 / 株式会社 北信理化 / 高山理化精機 株式会社 / タカヤマケミカル 株式会社 / アズサイエンス 株式会社 / 株式会社 理学 / 株式会社 ミライ化成

編集後記

近年、国内各所で自然災害による大きな被害が報告されています。その中でも記憶に新しいのは昨年の九月二七日に起きた御嶽山の噴火です。秋晴れの空に噴煙が立ち上り今でも思い出すと異様な光景でした。五十七人が犠牲となり尊い命が奪われました。周辺が立入禁止となり観光、農業などにも被害が及びました。温暖化による異常気象の影響で日本の四季が変化しつつある事に不安を抱きます。

明るい話題として、今年の三月、長野新幹線が金沢延伸に伴い北陸新幹線として開業し、四月には春の訪れと共に善光寺のご開帳が開かれ多くの観光客で賑わいました。上田市では二〇一七年のNHK大河ドラマ「真田丸」が決定し、にわかに活気づき観光客誘致に向けて様々な広報活動を行っています。信州も新緑の眩しい季節になりました。会員の皆さまが益々かやきますようにお祈り致します。ナチュラルに原稿をお寄せいただきまして皆さまに感謝申し上げます。

発行 長野県環境測定分析協会
編集 総務部
〒2004-0001
岡谷市田中町3丁目6-24
(株)コーエキ内
TEL 0266-26-1155
TEL 0266-26-1156
部長 梅垣和彦(株)エエ七
副部長 小川浩司(長野県労働基準協会連合会)
河合 毅(中部公衆衛生医学研究所)
部員 川井徹哉(環境未来(株))
白井賢治(南信公害研究所)
武田孝志(長野市薬剤師会)
制作 有限会社 ステーション・アース 担当 酒井
TEL 0266-26-11000